

諦めずに最後まで頑張ること

趙曉東

趙曉東と申します。2012年に桂林観光短期大学観光日本語学科を卒業しました。ハワイ、パリ、ニューヨーク、パリ、ミラノなどの世界中の有名な観光地を周遊することが夢です。2012年7月、通訳として広州のある日系企業に就職しましたが、自分のやりたいことと違っていたので、その後仕事をやめて日本に留学することにしました。

2013年4月22日に、亜細亜友之会外語学院に入学しました。学校のホームページを見て、直接申し込みました。学校に来てから、三日目でアルバイトを見つけました。全て順調そうに見えたのですが、自分自身の短大卒という中途半端な学歴で進学する時にいろいろ制限があることが分かりました。日本に来た短大卒生にとっては、基本的に二つの道しかありません。一つは、短大の学歴を放棄し、もう一度四年制の学部を受験することです。もう一つは、短大卒を受け入れる大学院を探すことです。しかし、殆どの国立大学、有名な私立大学の大学院は短大卒の学生を受け入れていません。

仕事までやめて日本留学に来た以上は三流の大学に入りたいと思いませんでした。色々悩んだ末、やはり東大の学部チャレンジすることにしました。しかし、現実はそのあまくありません。「TOEFL39点、有効期限が過ぎたN1の成績」という厳しい現実の前では、東大の夢は無残に砕け散りました。再び谷底に沈んだ私に助けの手を差し伸べたのは石川先生でした。

石川先生は私の現状と可能性を分析した上で、まず大学院研究生になってその後また大学院進学するというプランを勧めて下さいました。校長先生がお忙しい中で、わざわざ私を連れて国士舘大学の教授と面会させて下さいました。教授との面会は私の運命を変えたほどの大きな曲がり角だと今でもそう思っています。

出願までの2ヶ月間の中で、毎晩深夜3時まで勉強して、自分の研究テーマに関係する書籍を数十冊読みました。研究計画書に関しては、校長先生を始め、数名の先生に添削していただき、10数回の修正を経てやっと完成できました。先生方のおかげで、国士舘大学政治学研究所の研究生に合格できました。

亜細亜友之会外語学院の厳しい学生管理が東京入国管理局にも認められ、20回以上ビザ発給率100%を維持できています。学校の厳しい管理の下で、学生皆が良い学習と生活習慣をつけることができました。親切に指導して下さいました高橋先生、何でも熱心に相談に乗って下さった武中先生に心からお礼を申し上げたいと思います。

最後に、私と同じような短大卒の後輩の皆さんに以下の言葉を送りたいと思います。短大卒だからと言って、簡単に諦めて、夢を捨ててしまうことは絶対にしないでください。目標に向かって頑張れば、道がきっと開けてくれると信じてください。一年の研究生を経れば、私達も四年制の大学卒業生と同じような受験資格を持つようになります。スタートラインで一步遅れていたかもしれませんが、途中で追いつく、そして追い越す可能性も絶対あると思います。亜細亜友之会外語学院のおかげで、私の人生が変わりました。一人の男として、歴史に自分の名を残したいのであれば、今から人の数倍以上に努力しないと駄目だと思います。

最後に、短大生の代表として、卒業式で答辞をさせて頂きました。本当に光栄極まることだと思います。皆さんもこれから是非自分の夢に向かって頑張ってください！